※学部・研究科ごとに作成してください。

基準1 理念・目的 点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】</p> <p>環境・エネルギー研究科においては、研究教育および人材の養成に関する目的を設定している。具体的には環境・エネルギー問題に高い見識を持ち、分析・解析（analysis）や設計・統合（synthesis）の手法を駆使し、学問領域統合型アプローチによる、「現場・現物・現実」に基礎を置いた、実践的・戦略的な行動・活動のできる人材の育成を目指している。その際、能力や知識・知恵に加えて、総合的人間性の視点から、生活に根差した高度な倫理観を持ち、地球市民としての自覚の上に立って発想ができる能力を有する人材の育成を目指している（資料 1-①-1）。</p> <p>上記の目的設定は、大学で設定する根本理念としての三大教旨（資料 1-①-2）である、自主独立の精神を持つ近代的国民の養成を理想として、権力や時勢に左右されない、科学的な教育・研究を行うこと、その学問を現実に活用すること、グローバル化が進展する現代、豊かな人間性を持った地球市民の育成を目指すことに合致していると判断できる。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>1-①-1 環境・エネルギー研究科における研究教育および人材の養成に関する目的 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/policy/</p> <p>1-①-2 早稲田大学教旨 https://www.waseda.jp/top/about/work/mission</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
人材育成その他の教育研究上の目的（以下、「目的」）を設定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準1を満たしている。 ・目的を学則別表に記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準2を満たしている。 ・目的を学部・研究科単位で設定している。 ・目的は高等教育機関としてふさわしく、学部・研究科の個性や特徴を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準3を満たしている。 ・目的と大学の理念との関連性を考慮し、文中に明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準4を満たしている。 ・目的を課程ごと、学位ごとに定めている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 1 理念・目的 点検・評価項目②

学部・研究科の目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科の研究教育および人材の養成に関する目的については、研究科ホームページ（資料 1-②-1）の他、研究科パンフレット（資料 1-②-2）で周知を行っており、複数の方法で広く社会に公表している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>1-②-1 環境・エネルギー研究科における研究教育および人材の養成に関する目的 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/policy/</p> <p>1-②-2 環境・エネルギー研究科パンフレット P.2 https://www.waseda.jp/nyusi/ebro/gs/weee_je_2023/index.html#page=1</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
目的を刊行物やウェブサイトなどいずれかの方法で公表している。	目的を刊行物、ウェブサイトを含めた複数の方法で公表している。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・目的の公表にあたっては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・目的を箇所内の教職員が定期的に確認する機会を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・目的を簡条書きにする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

内部質保証のための方針及び手続を定めているか。

- 下記の要件を備えた内部質保証のための方針及び手続の設定
 - ・内部質保証に関する基本的な考え方
 - ・内部質保証の推進に責任を負う組織の権限と役割
 - ・教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針（PDCAサイクルの運用プロセスなど）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、環境・エネルギー研究科点検評価委員会設置要綱を定め、内部質保証に関する体制を整備し、その役割を定めている。なお、本設置要綱については、内部質保証の推進の観点から学術院長補佐（自己点検・評価担当）が新たな役職として設けられたことを踏まえて、2023年7月に改訂を行った。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証のための方針および手続を設定している。 ・内部質保証推進組織をはじめとする内部質保証に関する体制が整備され、各組織の権限・役割が内規等で定められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準1を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分に機能するよう、それぞれの役割が定義されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準2を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分な連携が図れるよう、それぞれの役割が定義されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準3を満たしている。 ・内部質保証体制を図示化するなど、PDCAの一連のサイクルが明確にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準4を満たしている。 ・内部質保証のための方針や手続について、所属の教職員に定期的に共有する機会を設けている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 2 内部質保証 点検・評価項目③

方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

- 方針及び手続に従った内部質保証活動の実施
- 学部・研究科における点検・評価の定期的な実施
- 学部・研究科における点検・評価結果に基づく改善・向上の計画的な実施
- 行政機関、認証評価機関等からの指摘事項（設置 計画履行状況等調査等）に対する適切な対応
- 点検・評価における客観性、妥当性の確保

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、環境・エネルギー研究科点検評価委員会が担うこととしている。 また点検・評価を適切に行うための指針として、学修成果の測定時期、測定方法を定めた環境・エネルギー研究科としてのアセスメント・ポリシーを 2023 年 6 月に策定した（資料 2-③-1）。今後、アセスメント・ポリシーに基づく定期的な自己点検・評価を環境・エネルギー研究科点検評価委員会において行っていく。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	2-③-1 環境・エネルギー研究科 アセスメント・ポリシー

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証の取組が方針と手続きに従って行われている。 ・点検・評価結果に基づいて、内部質保証推進組織による改善のための検討が行われている。 ・文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・点検・評価および点検・評価の結果に基づく改善を定期的に行う仕組みを構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・内部質保証推進組織による改善のための検討が行われ、その結果が箇所内に共有されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・点検・評価結果に基づく改善を行っている。 ・内部質保証のプロセスの客観性・妥当性を確保するための取組を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・内部質保証システムに関する自己点検・評価の結果に基づいた取り組みの結果、改善が見られる。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目①

授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、ディプロマ・ポリシーとして卒業認定・学位授与に関する方針を定め、ホームページで公表している（資料 4-①-1）。学位授与方針においては、環境・エネルギー分野における知識及び技能に関する要素に加えて、態度に関する要素として、当該分野に高い見識を持ち、かつまた市民感覚を理解し、国際的視点で対処できる人材の育成を目指していることを明記している。 上記の目的設定は、大学で設定する根本理念としての三大教旨（資料 4-①-2）である、自主独立の精神を持つ近代的国民の養成を理想として、権力や時勢に左右されない、科学的な教育・研究を行うこと、その学問を現実に活用すること、グローバル化が進展する現代、豊かな人間性を持った地球市民の育成を目指すことに合致していると判断できる。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>4-①-1 環境・エネルギー研究科における学位授与およびカリキュラム、入学者受入れに関する方針 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/policy/ 4-①-2 早稲田大学教旨 https://www.waseda.jp/top/about/work/mission</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 学位授与方針を課程ごとと学位ごとに設定している。 学位授与方針をウェブサイトや要項等で公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 1 を満たしている。 学位授与方針は、知識、技能、態度などの要素を含んだものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 2 を満たしている。 学位授与方針は全学の学位授与方針と連関性を有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 3 を満たしている。 学位授与方針に卒業要件、修了要件が明示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 4 を満たしている。 箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	修士は学位授与方針に、知識、技能、態度を含んでいることが読み取れたものの、博士は読み取ることができなかつたため、1 と判断する。

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目②

授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

- 下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表
 - 教育課程の体系、教育内容
 - 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等
- 教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、カリキュラム・ポリシーとして教育課程の編成・実施に関する方針を定め、ホームページで公表している（資料 4-②-1）。教育課程の編成・実施に関する方針は、学位授与方針で修了時に身に付けておくべき能力として提示する学修成果と連関して設定しており、編成・実施に関する基本的な考えを示している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	4-②-1 環境・エネルギー研究科における学位授与およびカリキュラム、入学者受入れに関する方針 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/policy/

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針を課程ごと、学位ごとに設定している。 ・教育課程の編成・実施方針をウェブサイトや要項等で公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針は、編成に関する考え方、実施に関する基本的な考え方を含んでいる。 ・学位授与方針との連関性を確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針に教育課程の体系、教育内容、構成する授業科目区分、授業形態等を記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。 	/

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目③

教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

- 各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置
 - ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
 - ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮
 - ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定
 - ・個々の授業科目の内容及び方法
 - ・授業科目の位置づけ（必修、選択等）
 - ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定
 - ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】）
 - ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】）
 - ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】）
 - ・理論教育と実務教育の適切な配置等（【院専】）
 - ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織 等の関わり
- 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）に即して、必修科目や専門科目、リサーチワークとコースワークを適切に設置している（資料 4-③-1）。 修士課程 1 年次には研究論文作成手法の学習や自らの研究テーマを多面的・多角的に発展させる演習、さらにはグループでの地域密着型の演習など、学問領域統合型の PBL による実践的プログラム等を設置している。講義科目は、研究科の教員によるコア科目、他研究科との合併科目授業を含む推奨科目を配置しており、工学もしくは学術の専門分野に応じて、多岐にわたる環境・エネルギー分野の専門的な知識を体系的に習得できる構成としている。修士課程 2 年次には修士論文における研究内容の高度化を目指し、複数の教員の共同指導による演習科目を設置している。またカリキュラム・ポリシーにおいて、1 年次に「学術・研究公正概論」を必修としていることを明記している（資料 4-③-2）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>4-③-1 環境・エネルギー研究科カリキュラム https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/curriculum/</p> <p>4-③-2 環境・エネルギー研究科における学位授与およびカリキュラム、入学者受入れに関する方針 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/policy/</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
教育課程の編成・実施方針と授業科目・教育課程の連関性を確認できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針に記載されている内容の科目が設置されている。 ・科目区分と設定されている授業時間数、単位 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点から必修科目や専門科目が適切に設置されている。 【学部】 ・初年次教育に配慮した 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点を踏まえて順次性や体系性に配慮した教育課程が編成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・社会的および職業的自立を図るための教育を行っている。

	数が適切である。	科目や教養科目、共通科目等が適切に配置されている。 【研究科】 ・リサーチワークとコースワークが適切に組み合わされている ・1年次に研究倫理教育を受講することを要項等に記載している。 【専門職】 ・理論教育と実務教育のバランスに配慮している。		
--	----------	--	--	--

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況 (2023年提出分は記載不要)

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目④

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

- 各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置
- ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）
- ・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、事前事後の学修の指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）
- ・授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知
- ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法（教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）
- ・学習の進捗と学生の理解度の確認
- ・授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導
- ・授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示
- ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数（【学士】）
- ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施（【修士】【博士】）
- ・実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施（【院専】）
- ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、教育課程の編成・実施方針と研究方法の連関性を確保し、分かりやすく図示したカリキュラム構成を研究科パンフレット（資料 4-④-1）等により学生に提示している。 またクラス規模については、研究室の定員目安を内規により定めるなど、適切な研究指導が行えるよう措置している。 シラバスについてはチェックリストを活用し、教務主任が中心となって組織的に確認を行っている。 研究指導に関しては、修論・博論計画書提出時において研究指導教員との間で綿密な計画立案に関する指導がなされ、それに基づいて、随時、研究の進捗確認と研究遂行に必要な指導を適切におこなっている。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	4-④-1 環境・エネルギー研究科パンフレット P.5 https://www.waseda.jp/nyusi/ebro/gs/weee_je_2023/index.html#page=1

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針と教育方法の連関性が確保されている。 ・授業内容・形態に配慮したクラス規模を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・年間の登録単位数が 50 単位を超過している学生について申し合わせに定める区分に応じて対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・授業外における学習に対する指導体制を構築している。 【研究科】 ・研究指導計画を学生に 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・各科目の到達目標と DP で定める学修成果などポリシーとシラバス記載内容の整合性が確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・学位プログラムとしての順次性・体系的に配慮した科目の配置が行われている。 【学部】

	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスチェックリストを活用し、記載項目に漏れがないか組織的に確認を行っている。 	<p>明示している。</p> <p>【専門職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務的能力育成のための教育上の工夫を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の獲得という観点から、適切な授業方法、形態が採用され、実施されている。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導計画に基づき研究指導を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話型、問題発見・解決型授業の割合が75%を超過している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導計画について定期的に見直しを行っている。
--	---	--	--	--

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況 (2023年提出分は記載不要)

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	根拠資料から2を満たしていることが読み取れないため、1と判断する。

成績評価、単位認定を適切に行っているか。

- 成績評価及び単位認定を適切に行うための措置
 - ・単位制度の趣旨に基づく単位認定
 - ・既修得単位等の適切な認定
 - ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては事前事後の学修の必要性についてシラバス等により教員・学生への周知・徹底を図っている。また毎年度、新学期ガイダンスにおいて修士課程の修了及び修士論文着手に必要な必修科目や単位数を周知している。 また共同指導科目について、成績評価基準に関する申し合わせを作成し、教員に周知するとともに、客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するため、共同指導を行う教員全員の合議により成績評価を決定している。ただし当該申し合わせは内規であり、学生には公開していない。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後の学修を含めた単位制度の趣旨について教員・学生への周知・徹底を行っている。 ・既修得単位の認定について箇所内で明確なルールを定めている。 <p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学部教育における成績評価基準に係わる申し合わせについて」に基づいた運用を行っていない。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準を定めていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・既修得単位の認定に関するルールについて、要項等で学生に周知している。 ・成績評価基準に基づいた運用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の可視化に関連する科目については絶対評価を用いるなど科目の性質に応じた柔軟な運用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・成績評価を行うにあたって、ルーブリックを使用するなど、客観性を確保するための取り組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・各科目における成績分布を箇所内で共有し、適切な成績評価が行われているか確認する仕組みを構築している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	根拠資料の提出がなく、自己評価の理由が妥当か確認できなかったため、1 と判断する。

学位授与を適切に行っているか。

- 学位授与を適切に行うための措置
- ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表
- ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置
- ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示
- ・適切な学位授与

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を設定し、ホームページで公開している（資料 4-⑤-2-1）。また学位論文の審査基準、審査プロセス、作成プロセス、日程についてはホームページで公表している（資料 4-⑤-2-2）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>4-⑤-2-1 環境・エネルギー研究科における学位授与およびカリキュラム、入学者受入れに関する方針 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/policy/</p> <p>4-⑤-2-2 環境・エネルギー研究科 Web ページ修士論文審査基準等 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/theses/ 博士論文の審査基準 等 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/dissertations/</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業・修了の要件を定めている。 ・卒業・修了の要件を刊行物、ウェブサイト等で公表している。 ・既修得単位数について上限を超えて認定されないような仕組みを設定している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導の方法やスケジュールを定めている。 ・学位論文等の審査基準を公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きについて定めている。 ・既修得単位の認定について箇所内での基準・手続き方法を定め、要項等で周知している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導の方法やスケジュールを学生にあらかじめ明示している。 ・学位論文の審査基準を学生に文書等であらかじめ明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きを要項等で明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 <p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文等について複数の教員で審査するなど組織的な審査体制を構築している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副指導教員を置くなど研究指導体制の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・学位授与の認定にあたってルーブリック評価を行うなど、客観性、透明性の確保のための工夫を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑥

学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定

○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては 2023 年度より学生生活・学習行動調査に箇所独自設問を追加し、研究科のディプロマ・ポリシーで設定する学修成果の可視化を図ることとしている。 また 2023 年度に策定したアセスメント・ポリシーに基づき、学修成果の測定について学生生活・学習行動調査のほか、学位論文の成績評価など多角的な方法により可視化することを規定している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 学修成果の指標および可視化の方法を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 1 を満たしている。 学修成果の指標および可視化の方法を定めている。 学位授与方針で示した学修成果と可視化の方法の関連性が明確である。 可視化の方法が多角的かつ適切な方法となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 2 を満たしている。 学修成果の指標および可視化の方法が専門分野の性質に応じた適切なものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 3 を満たしている。 間接評価と直接評価を組み合わせ可視化を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 4 を満たしている。 直接評価と間接評価の相関分析などによりデータの妥当性を検証している。 経年比較などを行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑦

教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

・学習成果の測定結果の適切な活用

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては内規により、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する申し合わせ及び、自己点検・評価委員会設置要綱を定め、教育課程及びその方法、方法の適切性について定期的に点検・評価を行うとともに、その結果をもとに教育課程の改善・向上に向けた取り組みを行っている。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について検討を行っている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について内規等で定めている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の可視化を定期的に行い、その評価結果を教育課程の検討を担う組織にフィードバックしている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえ、教育課程の改善・向上に向けた検討に着手している。	・評価基準 4 を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえた教育課程の改善・向上の実績がある。また、定期的に改善・向上を検討するサイクルが確立している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	根拠資料の提出がなく、自己評価の理由が妥当か確認できなかつたため、1 と判断する。

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目①

学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた入学者受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、ホームページで公開するとともに（資料 5-①-1）、パンフレットに掲載している（資料 5-①-2）。アドミッション・ポリシーには求める学生像を明示している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>5-①-1 環境・エネルギー研究科における学位授与およびカリキュラム、入学者受け入れに関する方針 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/about/policy/</p> <p>5-①-2 環境・エネルギー研究科パンフレット P.4 https://www.waseda.jp/nyusi/ebro/gs/weee_je_2023/index.html#page=1</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・課程ごとに学生の受け入れ方針を設定している。 ・学生の受け入れ方針を刊行物やウェブで公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、求める学生像を明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学位ごとに学生の受け入れ方針を定めている。 ・他のポリシーとの一貫性が確保できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、入学前の学習歴、学力水準、能力、判定方法についても明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目②

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
 - ・オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施
 - ・オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科の入学者受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）では、学門領域統合型アプローチでの研究教育と国際的視点の涵養を目指し、理系ならびに文系、社会人、留学生等、さまざまな経歴の人材を受け入れる方針を示している。入試についてはこのことを踏まえて、一般選抜だけではなく学内推薦（全学部対象）、AO入試（年3回実施）、外国人特別選考（年2回）と多様な入試を準備している点で適切であると判断することができる（資料5-②-1）。 入試制度の適切な運用のため、内規として入試関係に関する申し合わせ事項集を作成し、適切な運用に努めている。 入学案内では入学希望者にとって重要な費用に関する情報提供を行うとともに（資料5-②-1）、経済的支援に関する情報をホームページで提供しており（資料5-②-2）、本研究科を志望する学生への情報提供は適切に行われていると判断することができる。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	5-②-1 環境・エネルギー研究科入試試験情報 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/applicants/admission/ 5-②-2 環境・エネルギー研究科学費・奨学金 https://www.waseda.jp/fsci/gweee/students/tuition/

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学生の受け入れ方針と選抜制度に関連性が確保されている。	・評価基準1を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制を整備している。	・評価基準2を満たしている。 ・整備された運営体制のもと入学者の選抜が公正に実施されている。 ・費用や経済的支援に関する情報提供を行っている。	・評価基準3を満たしている。 ・方針に沿った学生を受け入れていることをデータにより確認している。	・評価基準4を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制の見直しを行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目③

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

- ・入学定員に対する入学者数比率（【学士】）
- ・編入学定員に対する編入学生数比率（【学士】）
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 早稲田大学大学院学則第5条において、当研究科の修士課程の入学定員は50名、収容定員は100名、博士後期課程の入学定員は7名、収容定員は21名、収容定員合計は121名と定められている。</p> <p>2023年9月1日現在、当研究科の在籍学生数は修士課程は2023年度4月入学者が49名、合計在籍人数が109名、博士後期課程は2023年度4月入学者が3名、合計在籍人数が18名、在籍学生人数合計が127名（※うち延長生が8名）となっており、いる。収容定員に対する在籍学生比率は適正と考えられる。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
<p>・収容定員に対する在籍学生数比率の管理を行っている。</p> <p>【学部】</p> <p>・入学定員充足率の5年平均もしくは収容定員充足率が、是正勧告に該当する基準（注1）をクリアしている。</p>	<p>・評価基準1を満たしている。</p> <p>【学部・研究科】</p> <p>・入学定員充足率の5年平均もしくは収容定員充足率が、改善課題に該当する基準（注2）をクリアしている。</p>	<p>・評価基準2を満たしている。</p> <p>【学部・研究科】</p> <p>・収容定員と在籍学生数に齟齬が生じた場合の対応方法やフローを確立している</p>	<p>・評価基準3を満たしている。</p> <p>・3つのポリシーなどに基づいて、あるべき収容定員数について意見交換を行う機会を設定している。</p>	

注1～注2：大学基準協会「評価にかかる各種指針」参照

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目④

学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科では学生の受け入れの適正性について、研究科運営委員会において議論を行い、必要な場合は入試制度の改善等を行っている。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスについて検討している。	・評価基準1を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスを内規等で定めている。	・評価基準2を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価を定期的実施している。	・評価基準3を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、改善に取り組んでいる。	・評価基準4を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、定期的な改善実績がある。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目①

大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

○求める教員像の設定

- ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等

○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科では、内規として教員の新任・昇格等に関する申し合わせにおいて、求める教員像を定めている。 研究科の教員組織の編成方針は、研究科運営委員会において協議され、研究業績や教育実績等を重んじて決定している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を定めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針において求める教員像を提示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を箇所内で適切に共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針について定期的に点検・評価を行う体制となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針についての点検・評価の結果に基づき、定期的な改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目②

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

○学部・研究科等ごとの専任教員数

○適切な教員組織編制のための措置

- ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性
- ・各学位課程の目的に即した教員配置
- ・国際性、男女比
- ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮
- ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置
- ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置
- ・教員の授業担当負担への適切な配慮

○教養教育の運営体制

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科の専任教員数は、平成十一年文部省告示第百七十五号（大学院設置基準第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数）別表に示されている基準を満たしている。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
<p>・専任教員数または教授数が設置基準を満たしている。</p> <p>【専門職】</p> <p>・実務家教員が適切に配置されている。</p>	<p>・評価基準 1 を満たしている。</p> <p>・教員組織の編制方針に則った採用活動を行っている。</p>	<p>・評価基準 2 を満たしている。</p> <p>・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針に基づく適切な教員編成となっている。（課程の目的、主要な授業科目への専任教員の配置、研究科担当教員の資格の明確化）</p>	<p>・評価基準 3 を満たしている。</p> <p>・国際性、男女比、年齢構成、各教員の授業負担のバランスの観点において適切に教員を配置している。</p>	<p>・評価基準 4 を満たしている。</p> <p>【学部】</p> <p>・教養科目や共通科目等の運営についての体制を構築している。</p>

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目③

教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

- 教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備
- 規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、内規として、教員の新任・昇格等に関する申し合わせ及び、人事委員会に関する内規を定め、これに基づき募集、採用、承認等の手続きを適切に実施している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定めている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定め、規定化することにより箇所内で共有している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・規定に基づき、募集、採用、昇任等の実施が行われている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・規定や運用について定期的に自己点検・評価を行う体制となっている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・点検・評価の結果を踏まえて定期的な改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	根拠資料の提出がなく、自己評価の理由が妥当か確認できなかったため、1 と判断する。

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目④

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施

○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては内規として、ファカルティ・ディベロップメント（FD）関係に関する申し合わせを定め、研究科の FD 会議において定期的に FD 関連事項を審議・検討するとともに、コア科目については全教員視察日を設定している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学部・研究科単位で FD 活動を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・課程ごとに教育改善にかかる FD が組織的に実施されている。 ・教育に加えて研究や社会貢献活動にかかる資質向上を目的とした FD が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・エビデンスにより明らかになった課題の改善を目的とした FD プログラムを実施している。 ・恒常的に専任教員の 3/4 以上が FD プログラムに参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・FD 活動によって教育活動等の改善を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・自己点検・評価の結果、FD 活動の改善に取り組んでいる。 ・専任教員全員が恒常的に FD プログラムに参加している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目⑤

教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	<p>【自己評価の理由】 環境・エネルギー研究科においては、教員組織の適切性について、研究科運営委員会において審議・検討を行っている。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし</p> <p>【課題】 今後、研究科としての教員組織の編制に関する方針の策定を検討する。</p>	

【評価基準】

1	2	3	4	5
・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を検討している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を内規等で定めている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を実施している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいる。	・評価基準 4 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を踏まえ定期的に改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	